

## R6 年度 嗜好調査の結果から見えた課題

老人保健施設 はくれい  
管理栄養士 鈴木 由華

### 1. はじめに

当施設では利用者様の嗜好やご意見を聴取し、今後の食事提供に反映させ食事の質の向上に努めるために2年に1度、嗜好調査を実施している。

より個々人に合った食事に対応するため、課題が抽出しやすいよう食形態別に集計している。

### 2. 方 法(実施状況)

調査期間：令和6年11月15日～令和7年1月14日

対象者：長期入所者、短期入所者、デイケア利用者

(嚥下調整食 2-1 および 2-2 に該当する方を除く)

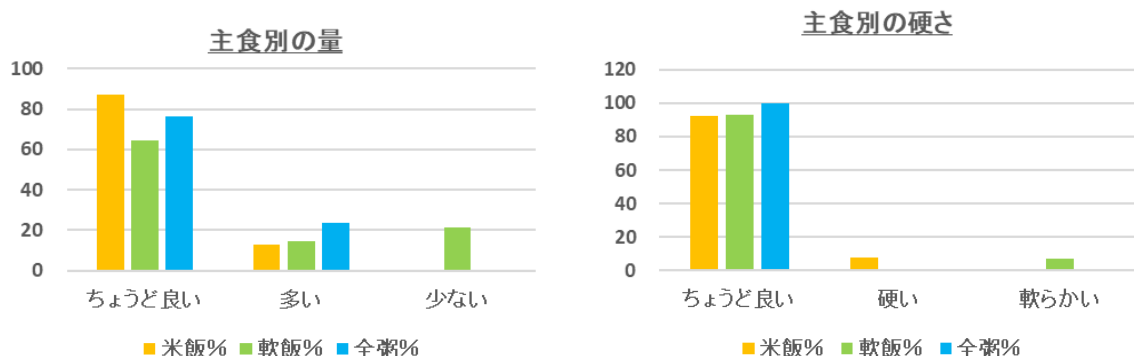
実施方法：アンケート用紙を配布して自身で記入、または栄養士の聞き取り

(主食の量・硬さ、副食の量・硬さ・味付け、美味しかったメニュー、改善必要なメニュー、その他ご意見を聴取)

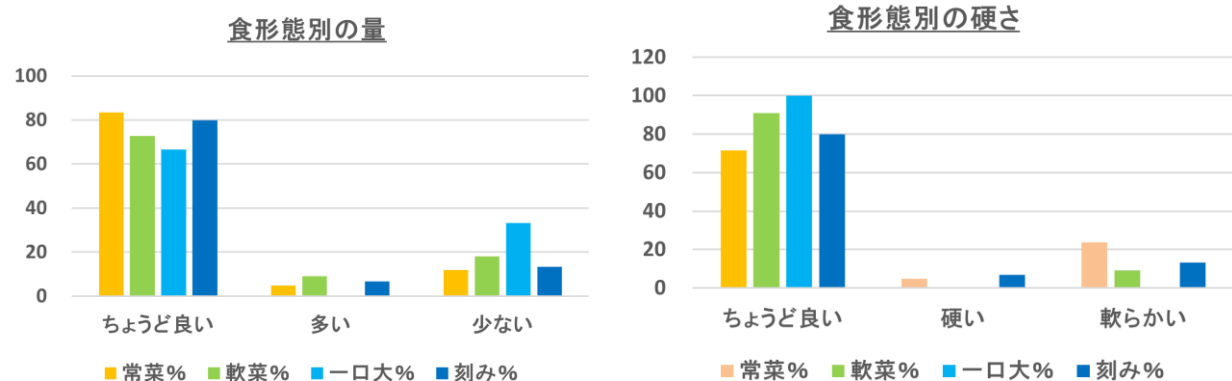
### 3. 結 果

回収状況は1階療棟入所者23名、2階療棟利用者25名、デイケア利用者 26 名、合計74名であった。

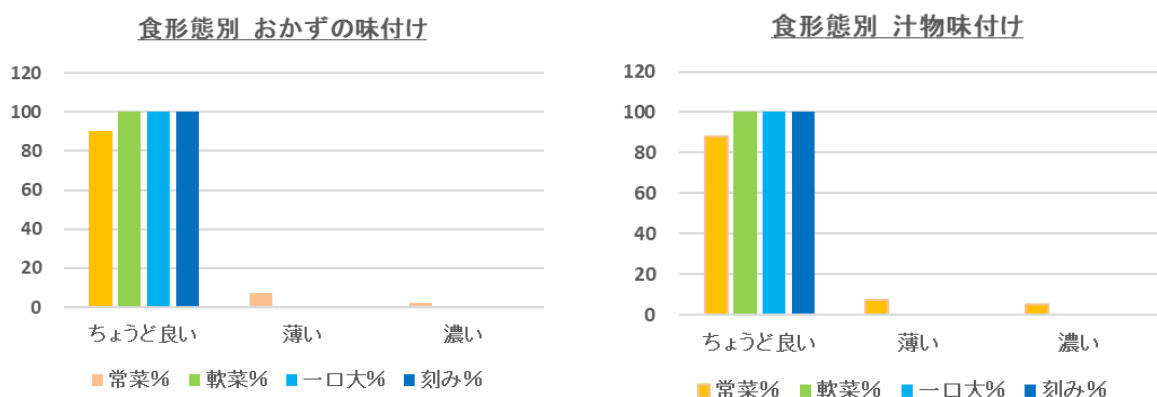
① 主食の量について「ちょうど良い」が平均で 80%であったが内訳をみると、軟飯の方が「ちょうど良い」が少なく、「少ない」と答えている方が 20%、全粥の方は「多い」と答える方が 20%いた。硬さについてはどの形態も「ちょうど良い」が 90%を超えていた。



② 副食の量について「ちょうど良い」は平均して 80%であった。「少ない」は 15%と前回調査時より2倍増加していた。食形態別では軟菜と一口大の方の「少ない」が 18%と 33%であり他の食形態より多かった。硬さについては「ちょうど良い」が平均して 78%であり前回評価時より低かった。食形態別では常菜の「ちょうど良い」が 71%と他の食形態より低く、「柔らかい」が 24%と多かった。



③ 味付けについては、副食・汁物ともに「ちょうど良い」が90%以上であった。



その他のご意見として、味付けに斑がある・野菜類が柔らかすぎる・お肉が硬い時があるとの意見が複数聞かれた。いつも美味しく食べています・体調に合わせてご飯を変えてくれてありがとう・個別対応してもらってありがたい・工夫された料理に喜んでいきますと好意的な感想もあった。

④ これまでに提供された食事で美味しかったメニューには、カレーライス、田楽みそを使用した料理、麺類、はらこ飯、天津飯、豚の角煮、かぼちゃスープが複数名より挙げられた。

改善してほしいメニューには、いんげんを使用した料理、豆腐料理等が挙げられた他に、付け合わせの野菜や煮びたしと答える方が多かった。味付けではなく食感が柔らかすぎたり、噛み切りにくいという理由であった。

⑤ 今後取り入れて欲しいメニューについて、味付きご飯(炊き込みごはん等)と答えた方が一番多く、次いで麺類・丼物・天ぷら・刺身・寿司等が挙げられた。

⑥ 上記以外に食事に対しての要望として、昼食にも汁物が欲しい・昼食にデザートを付けて欲しい・ふりかけを付けてほしい・お漬物があると良い・おかずの味付けを甘くしないで欲しいとの意見があった。

#### 4. 考 察

主食の硬さについては概ね良好であったが、提供量については軟飯・全粥の方で活動量も踏まえながらではあるが個別に調整が必要な方がいた。

副食の量については前回調査時と比較して「少ない」と答えた方が増加していた。食形態別に見ると軟菜・一口大の方に多かった。軟菜は消化に良く・且つ柔らかい食材を使用しているため常食より食べ応えに欠けるのではないかと考える。軟菜食の献立の見直しや、常菜にアップ可能な方がいないか検討していく。

副食の硬さについては前回評価時と比較して常菜の方が「柔らかい」と答える方が多く、全ての食形態で「硬い」と答えた方が減少していた。アンケート聴取時には柔らかくて食べやすいと答える方もいれば、柔らかすぎるという方もいた。双方に満足して頂ける硬さで提供できるように調理スタッフと検討していく。

味付けについては9割の方が「ちょうど良い」と答えていたが、日によって薄かったり濃かったりと斑があるとの意見が多かった。一定の味付けで提供できるよう味見の徹底と新しいスタッフへの情報共有をしっかりと実施し改善していく。

令和5年度10月から委託給食会社では新しい食事サービスへ切り替えており、新メニューも提供している。美味しかった料理の中に新メニューも含まれているが、改善が必要なメニューもあるため利用者様の反応を確認しながらより良い食事を提供できるよう厨房スタッフと連携をとっていきたい。また今後取り入れて欲しいメニューについても委託給食会社へ報告し可能なものから随時反映させていく。

#### 5. 結 語(まとめ)

嗜好調査の結果を食形態別に集計することで、今後改善すべき課題が明確となり、委託給食会社との情報共有がスムーズに行えた。また、アンケート聴取の際に自分で記入できる方から「久しぶりに字を書いたし考えることで頭使った。これもりハビリよね」との感想も頂いた。ラウンド時に本音を言いにくい方も匿名で自ら記入することで本音を伝えられるメリットもあった。一方で、「今聞かれても覚えていない、急に聞かれても分からない」と話す方も多かった。嗜好調査で得た課題と日々実施しているミールラウンドから得る課題を合わせ、より利用者様の状態に合った食事内容で提供し、今後も食事に対する満足度を高めていきたい。